

令和6年度 青少年交流事業
カナダ・ノースバンクーバー市派遣
帰国報告書

公益財団法人千葉市国際交流協会

目次

1. 派遣概要	2
2. 滞在日程	2
3. 研究レポート	7
(1) 文学に対する、カナダ・日本の人々の捉え方の違い 内山 朝和子	
(2) 日本とカナダの芸術文化に関する相違点と共通点について 小川 礼乃	
(3) カナダの自然環境について 古賀 愛子	
(4) カナダの自然保護について 鈴木 耕	
4. 滞后感想文（日本語／English）	20
(1) 喜びと学びの二週間／Two Weeks Filled with Joy and Learning 内山 朝和子 Sawako Uchiyama	
(2) 気持ちを伝えるということ／Communication with others 小川 礼乃 Ayano Ogawa	
(3) カナダでの滞在生活／Life of Canada 古賀 愛子 Aiko Koga	
(4) カナダに行って／Go to Canada 鈴木 耕 Koh Suzuki	
(5) カナダで見つけた新しい視点と心がほどけた夜 ／A Journey through Education and Emotion 千葉市立誉田小学校 養護教諭 志内 幸子(引率者) Chaperone Sachiko Shiuchi	
5. 記録写真（思い出の写真）	30

1. 派遣概要

- (1) 派遣都市 カナダ・ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー市
 (2) 派遣期間 令和6年8月5日(月)～8月20日(火)
 (3) 派遣者 高校生4人、引率者1人
 (4) 滞在形態 一般家庭にホームステイ
 (5) 現地受入機関 ノースショアライオンズクラブ 青少年交流委員会

2. 滞在日程

日付	曜日	内容	写真
8月5日 第1日目	月	<p>出発・到着</p> <p>16:55 (日本時間) 成田国際空港第1ターミナルより出国</p> <p>09:45 (現地時間) バンクーバー国際空港に到着 千葉へ向かう派遣生との交流</p> <p>Lunch: ウェルカムパーティ West Vancouver Lawn Bowling Clubにて</p> <p>各ホストファミリー宅へ</p>	 
8月6日 第2日目	火	<p>Free Day</p> <p>各ホストファミリーと過ごす</p>	
8月7日 第3日目	水	<p>Mayer Lunch</p> <p>AM: 浴衣で市庁舎表敬訪問 千葉市長からの手紙、記念品を贈呈 議員代表 Hollyさんから議場の案内を受ける</p> <p>Lunch: Hollyさんとノースバンクーバーベイサイドにて会食</p> <p>PM: 派遣生はホストブラザー&シスターとダウンタウン散策 その後レーザータグ体験</p> <p>引率者はライオンズクラブの月例会ミーティングに参加</p>	 

日付	曜日	内容	写真
8月8日 第4日目	木	<p>AM: Watermania (室内プール) スライダーや高飛び込みを体験 その後アイススケート体験</p> <p>PM: サンドイッチ等の昼食後ビリヤード体験 解散後は各ファミリーとボーリング等交流</p>	
8月9日 第5日目	金	<p>Cypress Mountain リフトに乗り頂上へ コースターに乗り滑り降りる</p> <p>Lunch: 山の中腹の長めのよいレストランにてピザを楽しむ 合間に広場でホストファミリーとフリスビーや野球で交流</p>	
8月10日 第6日目	土	<p>Stevenston Day</p> <p>AM: 鮭缶詰博物館訪問 解説員から缶詰製作の工程や労働環境の時代ごとの変遷を学ぶ</p> <p>Lunch: 港町にて人気のフィッシュ&チップス店で昼食</p> <p>PM: Britania Shipyards (漁村博物館) 屋外展示見学 かつての日本移民の暮らしや漁法を学習</p> <p>日本食雑貨店にて買い物 ホストファミリーにお勧めの日本食を紹介</p>	 
8月11日 第7日目	日	<p>Free Day</p> <p>派遣生は各ホストファミリーとショッピング等して休日を過ごす</p>	

日付	曜日	内容	写真
8月12日 第8日目	月	<p>Lions Day AM: Capilano Suspension Bridge 長いつり橋を渡り森の中を散策 Capilano River Facility(鮭の養殖場) Lunch: 与八鮭(日本食レストラン) PM: シーバスに乗り市街中心部へ Fly Over Canada(3Dアトラクション) Top of Tower(展望台) Gas Townにてショッピング 観光名所スチームクロック見学 イタリア料理の夕食</p>	  
8月13日 第9日目	火	<p>DC Kayaks 入り江にてホストブラザーらと二人一組でカヤック体験 PM: バーベキューディナー 入り江の公園でジョージさんによるバーベキュー</p>	 

日付	曜日	内容	写真
8月14日 第10日目	水	<p>Whistler Trip 1日目</p> <p>AM: Mine Museum 砂金探し体験 トロッコに 乗り鉱山内部見学、砕石場見学</p> <p>Lunch: Splitz Grill にて大きな ハンバーガーポテト</p> <p>PM: Whistler 街内散策、ショッピング ロッジに宿泊 卓球やビリヤードで交流</p> <p>Dinner: The Old Spaghetti Factory にて パスタ 夜は焼きマシュマロ体験</p>	 
8月15日 第11日目	木	<p>Whistler Trip 2日目</p> <p>Break Fast: カナダメンバーによる ブルーベリー入りパンケーキ</p> <p>AM: Sea to Sky Gondola に乗り スカーミッシュへ ハイキング</p> <p>Lunch: グリルドチーズサンド</p> <p>PM: スピードボート体験</p>	
8月16日 第12日目	金	<p>Shipyards Dinner</p> <p>各自ホストファミリーと過ごし、夕方に 合流 散策し屋台で夕食</p>	

日付	曜日	内容	写真
8月17日 第13日目	土	Free Day 派遣生は各ホストファミリーとショッピング等して休日を過ごす PM: Chaperon Night (引率者のみ) 過去のカナダ側引率者との夕食会	
8月18日 第14日目	日	Farewell Banquet 派遣生による出し物 (ダンスと千葉踊り) 感謝の気持ちを込めたスピーチ カナダの皆様からの記念品贈呈	 
8月19日 第15日目	月	ノースバンクーバー出発 12:50 (現地時間) バンクーバー国際空港 メインターミナルより出国	
8月20日 第16日目	火	到着 14:55 (日本時間) 成田国際空港第1 ターミナルに到着	

3. 研究レポート

文学に対する、カナダ・日本の人々の捉え方の違い

内山 朝和子

【テーマ選定理由】

カナダに訪問できることが決まり、まず頭に浮かんだのは、『赤毛のアン』の生まれた国に行ける！ということ。幼少期から本が大好きだった私は、カナダでも文学に関する事に触れたいと思い、両国の人々の身近にある本の様子を研究しようと決めた。

【研究報告】

1. カナダ、日本文学の両国での捉えられ方

*有名なカナダ文学の捉えられ方

ここでは、日本でも長年愛される児童文学『赤毛のアン』を対象に、両国でどのように浸透しているのか調査した。

今回は、

○カナダ、日本の人々へのインタビュー

○カナダ、日本の本屋、図書館の様子

の二つの観点から考察する。



	カナダ	日本
インタビュー	Austin:読んだこと有り Karlie:1番好きな本 Sam:題名は知っているが、読んだこと無し	私:大好きな本 母:好きな本の一つ Mizuki:題名は知っているが、読んだこと無し
本屋、図書館の様子	ショッピングモールの本屋さん:何種類か販売、続編も少し在庫有り Parkgate Library (地域図書館):何種類かの本(貸出中も含む)有り、映画版のDVDなども有り	千葉商業施設の本屋さん: 西都賀図書館:何種類か蔵書有り、続編や研究書も有り 千葉市中央図書館:英語、日本語訳共に何種類か有り

考察:カナダと日本での人気度に、大きな差は感じられなかった。カナダの学生でも『赤毛のアン』の題名は知っているが、読んだことがない人もいたことから、日本で言う、『こころ』や『檸檬』などの、学生では読んだことがない人も多い本の、捉えられ方に似ているのではないかと思う。

*有名な日本文学の捉えられ方

ここでは、図書館、本屋で、明治時代の文豪、夏目漱石や、ノーベル文学賞にノミネート多数の村上春樹の2人に絞り、蔵書検索をかけた。結果は、『こころ』などいくつかの作品は、在庫は無いものの、取り寄せる事が可能だった。

ホストシスターに検索結果を見せながら、日本の本を知っているか尋ねると、知らないとの事だった。

一方でとても驚いたことは、本屋、図書館に、本場日本も顔負けの数の「日本のマンガ」が置かれていたことだ。ホストシスターも日本の有名なマンガやアニメが好きで、特にジブリはグッズも買ってしまうほどのファンだった。



↑本屋、図書館に置かれていた日本のマンガ

このように、カナダでは、日本文学にあまり親しみは無いが、日本のマンガ・アニメ文化は広く浸透していることが分かった。

2. カナダと日本の図書館の違い

次に、カナダの図書館を訪れた時の気付き、日本との違いを紹介する。

*外国語の本

図書館を訪れて最も驚いた点は、カナダの公用語である英語、フランス語に限らず、スペイン語や中国語、韓国語、日本語など、たくさんの異なる言語の絵本が置かれていた事。カナダには異国のルーツを持つ人々が多く暮らしている。そのため、街の小さな図書館であろうと、誰でも読書を楽しめる仕組みが出来ているようだ。

対して、千葉市は、外国語の本が置かれている図書館に限りがある。近所にある西都賀図書館には、外国語で書かれた本、絵本は一冊も無かった。千葉市では1番規模の大きい中央図書館には、Parkgate Library よりも多くの外国語の本があり、言語の種類も多様だった。

*蔵書検索

カナダと日本の図書館は、蔵書検索の仕組みも少し違っていた。

日本では、蔵書検索をした際、結果を簡単にプリントアウトすることができる。対してカ

ナダでは、蔵書検索のパソコンの隣にコピー機は無く、検索結果を記録したい時はスマホで写真を撮るか、自分でメモをする必要があった。

少し不便に感じたが、スマホで写真を撮る方が現代の生活に即しているとも思える。また、ペーパーレス化の観点から見ると、印刷用紙の削減に繋がっていて良いと感じた。

3. カナダの街中で見られた本の様子

カナダでは、本屋さんや図書館に限らず、博物館のミュージアムショップなど、様々な場所で読書を楽しむ工夫がされていた。

* museum

滞在中に訪れた博物館、美術館、資料館などのミュージアムショップでは、そこで展示されている内容に関連した本・絵本が展示、販売されていた。

博物館に置かれていた本→



* little free library

カナダの街には、至る所に“little free library”

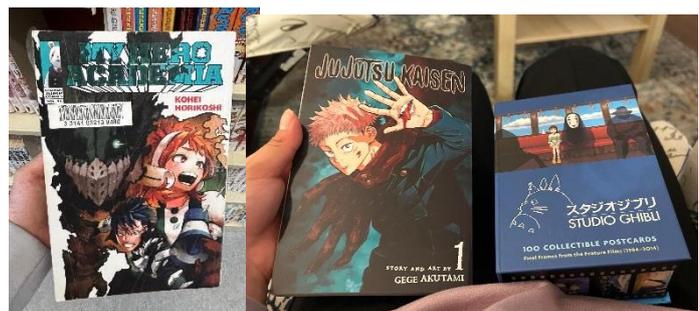
(小さな図書館)と呼ばれるものが建てられている。中には地域の住民が置いていったさまざまなジャンルの古本。誰でもそれらの本を読んだり、古本を寄贈したりする事ができる。



←街中で見られた little free library

【まとめ】

メインテーマであった、カナダ文学に対する両国の捉え方の違いは、人気度には特に大きな差はなく、どちらの国でも同じように長く愛されていることが分かった。そして、カナダでは日



↑浸透している日本のマンガ・アニメ文化

本文学はあまり浸透していなかったものの、日本のマンガ・アニメ文化は多くの人に愛されていることが分かり、とても嬉しかった。

また、カナダ滞在中は、文学や読書の視点からも周りを見ていたため、様々な気付きを得ることができた。特に、地域の小さな図書館に多くの外国語の絵本が置かれていたこと、街の至る所に little free library が設置されていたことは、とても印象に残っている。前者の、どの言語を話す子供も読書を楽しめる工夫は、近年、異なるルーツを持つ家族・子供が増えている日本、そして千葉市でも必要な取り組みだと思う。後者の little free library は、地域の人々に読書への親しみを持ってもらえる効果があると共に、環境にとっても優しく、日本でももっと広がってほしい、素敵な取り組みだと思った。

今回の研究が、直接ではなくとも、皆さんのこれからの多様な読書の楽しみ方に繋がればとても嬉しい。

日本とカナダの芸術文化に関する相違点と共通点について

小川 礼乃

【研究内容】

- カナダではどのように芸術文化に触れて、守っているのかについて
- 日本の文化とどのように重なるのか

【課題設定理由】

私は国際交流の面だけでなく、自分以外の人と関わる時に感じるお互いの違いには必ず共通点があると考えています。そのため、カナダに行く前から日本とカナダの文化の違いについて調べようと考えていました。実際にカナダを訪れてみて、カナダでは日本に比べて絵や像などのアート作品がまちなかや施設に多くあり、身近にあると感じたので芸術文化に絞って相違点と共通点について調べてみようと思いました。

【研究報告】

1. 日本とは違うと感じたところ

前述の通り、アート作品との距離感が違うと感じました。理由は以下の4つです。

- ホームステイ先に絵が多く飾ってあったこと。
- まちなかにオブジェクトや像があったこと。
- アートギャラリー、美術館が多かったこと。
- 屋外で映画や劇を見られたこと。

特に、まちなかにオブジェクトや像があったという点について、私は一番衝撃を受けました。ホストファミリーに水族館に連れて行ってもらったときに、その水族館のエントランスには天井からクラゲのモバイル（右側の写真）が吊るされていました。日本の水族館でそのような装飾がされているイメージがあまりなかったので、見惚れるのと同時に驚いたのを覚えています。



2. 日本と同じだと感じたところ

(1) 自然を大切にしている

日本とカナダのどちらもアート作品の題材として、森や熊などの自然が使われることが多いように思います。

特に自然の中にアートがあることが多いと思います。

例えば、千葉市では「YoHas」と言われる大賀ハスをモチーフにしたお祭りが行われていて、カナダでは、トーテムポールや山の中にフォトスポットがあったりします。





(2) 歴史を伝えている

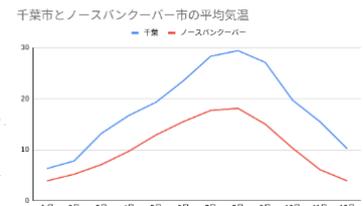
カナダでは、博物館を通して先住民族の言葉や生活について学ぶことができます。同じように日本でも千葉の加曽利貝塚のような遺跡から歴史を学ぶことができます。



3. なぜ違いが生まれたのか

(1) 気候

カナダは日本よりも平均気温が低く、日照時間が長いため外で長時間活動することに向いていると感じました。そのため、19:00 頃から劇を見始めても湿気はもとより、暑さを気にすることなく楽しむことができると考えられます。



(2) 公園などで絵が売られていたから

私がカナダを訪れたとき、ちょうど海の近くでアートフェスのようなものが行われていて、多くの出展者の方がいました。出展されていたのは絵だけでなく、お皿やニードルケースなどの小物もあって、気軽に多くの創作物に触れることができます。また、購入もできるので、アートがより身近に感じることができると考えられます。

私のホストマザーは手芸などが好きな人で、こういったアートフェスやお店で見た商品を真似して自分でも作ってみるそうです。私のホストマザーのように触れる機会が多いと刺激になるので、より始めてみようと思う人が増えると考えます。



(3) 土地の広さ

カナダの国土は日本の国土の約27倍の大きさです。そのため、多くの人が集まって音楽を聞いたり、劇を見たりする場所が確保し易いのではないかと考えられま

す。また、発表するための会場を大きく作ることで、1つの団体に多くの人が参加して集まってくれた人に届けることが可能です。そのため、自分もやりたい、もう一度みたい、ききたいと思う人が増えて、よりその芸術について広めることができます。

4. まとめ

カナダで芸術文化との距離が近いのは、気候や公園などの環境が揃っているからと考えられます。距離が近い事で自分でも試してみようと思ったり、芸術文化についてもっと知りたいという意欲が生まれ、多くの人に広めるきっかけになるのでは無いかと思いました。

一方で、日本とカナダのどちらも昔の人の暮らしや自然を大切にしていると感じました。つまり、日本とカナダには大切にするためのひとつの手段としてアートを選んでいるという共通点があると言えます。

【研究を通して】

私はもともと日本とカナダの生活文化について研究しようと考えていました。しかし、実際に現地に行っているいろいろなところに行くうちに、カナダのまちなかには様々なアートが置かれていることにとっても惹かれました。それと同時にまちなみの明るさや人の柔らかさはアートとの距離感に現れているのではないかと感じました。芸術を通して自分を表して、人に知ってもらうことが近くにあるからこそ自分の意思をしっかりと伝えることができるのだと思います。

私が知らないだけかも知れませんが、日本では野外ステージやアートフェスなどが少ないように感じます。より積極的にアートに触れることで、人との距離感の取り方が変わってくるのではないかと思います。

カナダの自然環境について

古賀 愛子

【テーマ選定理由】

ノースバンクーバー市は千葉市よりも自然が身近にあり、さらに多くの自然に恵まれていることを知り、カナダの自然環境及びどのようにその自然を保っているのか興味がわきテーマに選びました。

【カナダの自然環境について】

カナダに着いてすぐ感じたことは涼しいということと木が大きいということでした。実際、私がカナダに訪れている間のカナダの気温はほとんど 30℃を越えることはなく、暑さを感じることはありませんでした。特に朝は長袖長ズボンで過ごしていても寒かったです。空気は日本に比べて乾燥しており日陰に入るととても快適でした。

そしてカナダはとにかく自然が多い！ホストファミリーによるとノースバンクーバー市の人口の 9 割がアメリカとの国境付近に住んでいるそうです。その理由は、ノースバンクーバー市の北の多くの部分は森林しかなく人が住めないからとのことでした。それぐらいカナダには自然が多くホストファミリーの家からも山が 3 座ほど見えました。



ディープコープとディープコープで見つけたクラゲ

【カナダのごみの処理について】

このようにカナダには多くの自然があり、毎日その景色や空気を楽しみながら散策していましたが普段歩く道を含め、あまりごみが落ちていることはありませんでした。そこでカナダでゴミ処理をどのようにして行っているのか調べてみました。

1)ごみ箱

町中のごみ箱を見てみると、日本との違いが多く見られました。

—カナダのごみ箱の特徴—

- ・場所によってごみ箱のデザインが違う
- ・郊外にあるごみ箱にはクマ対策がしてある



←このようにごみ箱をあけるためには手を奥まで入れなければいけません。ホストブラザーによるとカナダではクマが出ることもあるため、クマにごみ箱をあさられないように対策をしているそうです。実際、私のホストブラザーも去年、クマに遭遇したそうです。夜に暗い中二人で帰ったときは、クマが来たときの対処法を教えてくださいました。

- ・町中にたくさんのごみ箱が置いてある

周りを見回したとき、ごみ箱を探すのは容易で見つけられないことはほとんどありませんでした。また様々な種類のごみ箱があって興味深かったです。



自転車のタイヤのリサイクル

ペットの糞のごみ箱

↑

ごみを様々な種類に分別するというを小さいころから行うことでごみ対策への意識が高まるのではないかと思います。

2)家庭でのごみ処理

カナダのリサイクル場を紹介します。

カナダでは牛乳のボトルやプラスチックトレイなどの多くのリサイクル品を自分でリサイクル場に持っていきます。ほとんどの人が車や自転車で来ていました。

リサイクル場では自分でリサイクル品を指定してある場所へもっていく仕組みでした。一個一個のごみ捨て場がとても大きくたくさんのもが捨てられていました。分別はとても細かく電化製品を大きいものと小さいものに分別したり食用油のごみ捨て場もありました。

その中で特に私が興味深かったのが **Return-It Expro &Go** という制度です。これはリサイクル場だけではなくスーパーマーケットにもありました。この制度は牛乳のボトルなど指定されているものを捨てるとお金がもらえるという制度です。日本にはこんなにも身近にリサイクルを体験することができないのでとても驚きました。また、このようにお金が戻ってくるというインセンティブがあると、リサイクルの意識も高まるのではないかと感じました。



私のホストシスターが **Return-It Expro &Go** に登録している様子

【まとめ】

今回、カナダの自然環境とごみ対策について調べて日本との違いに驚きました。カナダに訪れる以前より文化などの違いはあると予想していましたが環境とごみ処理についてだけでも日本とカナダに大きな違いがあることにとても驚きました。私は将来、地球をきれいにできるような仕事に就きたいと思っています。そのためこのような機会を設けてくださり高校生のうちに自分の知らない世界を教えてくださいました皆さんに感謝を申し上げます。この経験をいかしてこれからも生活していきたいです。

余談ですが、私が初日にレポートでごみ対策について調べたいとホストブラザーとシスターにいったところ町でゴミ箱を発見するとすぐに「愛子！ゴミ箱あるよ！」と、教えてくれました。こんなに「ゴミ箱、ゴミ箱」と言われたのは人生で初めてです。みんな本当に優しく面白かったです。

カナダの自然保護について

鈴木 耕

【テーマの選定理由】

私は、小学生のときの授業の一環でカナダについて発表することになり、自ら調べたことがある。そのとき、小さいながらにカナダは自然が豊かな国だと知った。そのことを覚えていたことから、カナダは自然をどのように維持、保護しているのか気になった。

【研究報告】

1. 目的

ノースバンクーバー市と千葉市の自然環境の維持管理に対する行政の支出と考えを比較する

2. 方法

2.1. 公開情報からの調査

各市の Web Site から、自然環境の保護に関する情報を収集した

2.2. 留学中の経験

留学中に行った観光場所で感じたことと日常会話から情報を収集した

2.3. 千葉市の自然保護

千葉市の Web-Site から情報を収集した

3. 結果

3.1. 公開情報からの調査

表. ノースバンクーバー市と千葉市の情報比較 ※1CAD=105 円として計算する

	ノースバンクーバー市		千葉市	
	公開情報	1人あたり	公開情報	1人あたり
人口 (人)	58,120		984,285	
面積 (km ²)	11.95	0.000205	272.1	0.000276
歳入	186,061,000 CAD 19,536,405,000 円	336,139 円	509,112,268,000 円	517,241 円
歳出	150,697,000 CAD 15,823,185,000 円	272,250 円	502,670,618,000 円	510,696 円
自然保護に対する支出	[Parks, recreation and culture] 37,143,000 CAD 3,900,015,000 円	67,103 円	[ごみ処理、環境保全] 歳出の 3% 約 150 億円	15,320 円

○ノースバンクーバー市と千葉市を比較して

- ・ 歳入、歳出に関して、千葉市のほうが多い。
- ・ ノースバンクーバー市の支出のうち、「Parks, recreation and culture」と分類されていた項目を自然保護に関する費用を含むと判断した。また、千葉市も、明確に自然保護についての項目を見つけられなかったが、「ごみ処理、環境保全」が最も近いと判断した。自然保護に関連する支出は、人口1人あたりで比較するとノースバンクーバー市は千葉市よりもお金が多い。

3.2. 留学中の経験

○実際に自分がノースバンクーバー市で観光した場所について

(1) キャピラノ吊り橋 (写真①)

全長約130m、高さ70mの歩行者用として世界最長の吊り橋。

周りは森林に囲まれていて、歩くところは整備がされていた。

この公園に勤めている人たちは作業着を着て、整備道具を持っていた。

(2) Deep Cove (写真②)

きれいな山に囲まれていて、カヌーを体験することができた。

海につながるので、海水で水質がよく、透明だった。

整備する人を見ることはなかったが、ゴミ箱がたくさん設置されていた。



写真①



写真②

○留学中の普段の生活から感じたこと

- ・ ノースバンクーバー市は千葉市よりも自然に囲まれていると実際に行ってみて感じた。また、ホストファミリーに休日することを質問したとき、ピクニックやサッカーをすると答えてくれた。
- ・ ノースバンクーバー市は千葉市よりも多くのごみ箱が街中やキャピラノ吊り橋などの自然観光できる場所に設置されていた。
- ・ 街中に水筒の給水所が設置されていて自由に無料で水筒に冷たい水を給水できる装置があった。

3.3. 千葉市の自然保護

千葉市は野生動植物の保護や水環境の保全などの自然保護に力を入れていることがわかった。具体的には、ヤマユリ、キンラン、コアジサシなどの千葉市内で見られる生物の保護、谷津田の水環境の保全であった。谷津田には多くの野生生物が共生していて保全が必要であり、次世代の子供たちに引き継ぐために行政と地域、市民が連携し保全することを目標としている。

4. 考察

カナダの人は、普段から公園でピクニックやサッカーをすることから、カナダの人は自然に対して肯定的で関心を持っていると思う。また、ごみ箱や給水所が街中や自然の中に多くあることからノースバンクーバー市は、もともとある豊かな自然を維持管理するため、千葉市よりも1人あたりで考えたときに多くの税金を使っていると考えられる。率直にノースバンクーバー市の自然に対する意識の高さと運用している税金の金額の高さに驚いた。自分は谷津田とは何かを知らなかった。私が小学生のときカナダのことを調べたことのように小学生の記憶は印象強く残っており、次世代の子供たちに谷津田を引き継ぐためには谷津田について自ら調べ、知る機会が小学校教育などであってもよいと思った。自ら調べ、知ることは記憶に残りやすいと思う。

5. 参考にした資料

- ・ 千葉市の財政状況
 - <https://www.city.chiba.jp/zaiseikyoku/zaisei/zaisei/documents/minnano-zaisei-r3.pdf>
- ・ 千葉市の谷津田について
 - <https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/>
- ・ ノースバンクーバー市の財政状況
 - <https://www.cnv.org/City-Hall/Finances/Financial-Statements>
- ・ キャピラノ吊り橋について
 - <https://arapro.ca/capilano-suspension-bridge/>

4. 滞在感想文

喜びと学びの二週間

内山 朝和子

今回ノースバンクーバーを訪れて、私は、以前よりも広い視野・異なる視点から、物事を考えられるようになりました。特にシーサファリでは、ボートで大きな波に乗って、かなりスリリングな楽しみを味わった後、野生のアザラシやカモメを間近で観察することができました。目の前で泳いだり、昼寝をしたりしているアザラシを見た時、今までにない感動と、環境保全の必要性を覚えました。これまでも、環境問題の深刻さを理解しているつもりでした。しかし今では、抽象的なイメージではなく、あのアザラシが昼寝をできる環境を守っていかなければならない、という強い責任感、焦りを感じています。このような思考の変化は、雄大な自然に恵まれたカナダでの生活なしでは起こりえませんでした。

初めは、話しかけて貰っても一回では聞き取れず、話そうとしても思うように英語が口から出ず、得意だと思っていた自分の英語に自信を失う時が何度もありました。でも、カナダの皆さんは温かく、気さくな方ばかりで、私たちの拙い言葉を辛抱強く聞いてくださいました。なかなか日が沈まない街で、毎日ホストブラザー、ホストシスターやその弟妹と、カナダ流の鬼ごっこ **grounder** をして遊んだ日々はかけがえのない思い出です。ホストシスターと心から笑い合えた時の喜びは忘れることはありません。最後には、お互い恋バナやジョークまで言えるほど仲良くなれて、最高に嬉しかったです。

今でも、目を瞑れば、カナダでの日々、景色が鮮やかによみがえります。最初は大変に感じられた生活も、今では全てが大切な思い出で、とても恋しくなる事があります。でも、また来年、カナダのみんなと会えると思えば、寂しくはありません。次は私達が、日本で素敵な思い出を作れるように、カナダの派遣生を支える番です。そのために、カナダでの英語力を始めとした課題を改善し、出迎える準備をしようと思います。

この夏に得た、カナダの皆さんとの繋がりを大切に、この先の進路に進んでからも頑張ります。最後になりますが、私たちの挑戦を支えてくださったカナダの皆様、千葉市国際交流協会の皆様、千葉中央ライオンズクラブクラブの皆様、家族、一緒にカナダでの生活を共にした派遣生のみんな、引率者の志内先生、ありがとうございました。

Two Weeks Filled with Joy and Learning

Sawako Uchiyama

Through this exchange program in North Vancouver, I became able to see things from different perspectives. In particular the Sea Safari, it was a thrilling activity with steep turns and banks on the boat, we could observe wild seals and seagulls after that. I was really impressed as never before and felt the necessity of environmental conservation when I saw seals swimming and taking a nap. I used to think I understood the seriousness of environmental issues. But now I feel a strong sense of responsibility and urgency that we have to protect this environment where the seals can sleep happily forever. This change in thinking like this could not have happened without this experience of living in Canada, a country blessed with great nature.

In the beginning, I could not understand what they were saying, and when I tried to respond, English did not come out of my mouth as I wanted. Therefore I lost confidence in my English skills, which I thought I was good at. However, all citizens in North Vancouver were warm hearted and friendly, so they listened patiently to our poor English. The days we played “grounders”, a Canadian style tag using playground equipment, with our host brothers, host sister and their younger siblings in the town where the sun set late are my precious memories. I will never forget the joy when I could share a hearty laugh with my host sister. Finally we became so good friends that we could enjoy girls’ talk and even tell jokes!

Even now, when I close my eyes, there is life in Canada and the scenery of Canada. Sometimes I suddenly miss the days of Canada, which I was having so hard at first, but now they are all my precious memories. However I am not sad because we can meet again in Japan next year. Next, it is our turn to support and host students from North Vancouver. For that, I improve my English skills and other problems that I have learned in Canada and prepare to welcome them.

Treasuring this relationship with people in North Vancouver, I will do my best in my future. Finally, I would like to say thank you to the people in North Vancouver who supported our challenges, members of CCIA, members of Chiba Chuo Lions Club, my family, all the exchange students shared the memorable days in Canada, and our dear chaperone, Ms. Shiuchi.

気持ちを伝えるということ

小川 礼乃

私にとってこのノースバンクーバー派遣事業は書類審査を含め、初めてのことの連続でした。何も知らなかった私が、今このようにノースバンクーバーでの思い出を振り返り、来年の受け入れについて考えることができるのは家族をはじめとした多くの人の助けがあったからです。

私は自分の考えや気持ちを他人に伝えることがとても苦手です。そのため、私にとってこの派遣事業に参加することは大きな挑戦でした。前回の派遣生の方々の話の通り、ホストファミリーは私の気持ちをとても尊重してくれ、毎日今日はどういう一日にしたかを聞いてくれました。その時すぐに自分のやりたいことを出せないことが悔しかったです。

しかし、この経験をしたからこそ改めて自分が本当に大切にしているものが見えたと思います。私が一番大切にしていることは、誰かを喜ばせることなのだと思います。そう思ったきっかけは、日本から持ってきたお土産を渡したときや帰国前に手紙を渡したときの笑顔です。プレゼントを渡したときの笑顔がとびきりであることはカナダの人だけではなく、きっと世界中の人に当てはまります。

誰かを笑顔にしたいと望むのであれば、その人についてできるだけ知るべきです。自分とは違う国籍の人を笑顔にしようとするのならなおさらです。人について知るためには自分の気持ちや考えを明確に持つ必要があると思います。自分の知りたいことがなければ何も知れないからです。つまり、私が誰かを笑顔にしたいと思うなら、自分を発信することを得意にならなければいけません。

日本に戻ってきた今も、私は自分の考えや気持ちを伝えることも明確にすることも苦手です。しかし、今回のノースバンクーバー派遣事業で得た経験のおかげで向き合うことができました。

この経験は間違いなく、私の一生の財産です。この機会を作ってくださったすべての方々に感謝申し上げます。

Communicating with others

Ayano Ogawa

All the things which I experienced through this exchange program are new and surprising for me. Although I had known much about foreign countries before I tried this program, thanks to all the support from many people, I am now confidently able to think about welcoming great friends from North Vancouver next year.

I am not good at expressing my thoughts and feelings to other people so trying this program was the biggest challenge in my life. As I heard from exchange students who went to Canada before, my host family respected my thoughts and asked me what I wanted to do. However, I was frustrated because I could not tell what I wanted to do soon at that time.

This experience made me think about what is important for me. I have found that the most important thing for me is making someone happy. When I gave my host family souvenirs or letters, they seemed happy. Their smiling faces made me happy too.

If I want to make someone smile, I should know them as much as possible. I think I should have my opinions and feelings clearly to get to know each other better because if I do not have what I want to know, I cannot find anything about them. In other words, I should be good at telling people about myself to make others happy.

I am not good at telling people about my thoughts and feelings yet, but thanks to the many experiences I had through this trip, I have started to think about myself. I am sure this is my lifetime treasure. I am grateful to everyone who gave me this great opportunity.

カナダでの滞在生活

古賀 愛子

私がこの企画に応募したきっかけは海外に行って自分の考え方を広めたいということ、今年は何か一つ大きな物事に挑戦したいという目標があったからです。私は海外へ訪れたことはありましたが、現地の人と交流をすることはなかったので、面接に合格した時は嬉しさと不安がありました。

カナダの人たちは本当に優しく明るい人柄で、話していてとても楽しかったです。最初にあったときから私がなんとなく言ったらいいか分からないときも、知らないことがあったときも、質問したらとても丁寧に教えてくれました。それでも私がうまく伝えられないときは、一緒に話しているみんなで様々な言葉に直して私が分かる言葉があるまで言い直してくれ、とてもうれしく思いました。カナダは一つの家族のようにあたたかく、日本を出発する際の不安はすぐに消えました。

また、私は御飯が口に合うか少し心配していましたが、すべての料理がとてもおいしかったです。カナダは食事も多様性に富んでいました。初日に空港から目的地に行くまでに多くの日本料理店や中華料理店を見かけ、驚きました。私のホストファミリーもラテンアメリカから引っ越してきたそうで、家で食べる御飯にたまにホストマザーの故郷の料理が出てきました。カナダでは本当に様々な料理を楽しみました。

そして、カナダでしたことは、どれも経験したことのないようなものが多かったです。特に日本では体験できないような豊かな自然の中で多くのアクティビティをさせていただきました。どれも楽しみながら、カナダと日本の交流の歴史や、カナダの野生動物など多くのことを学ぶことができました。

カナダで過ごした時間は本当に濃く、また一瞬で終わってしまいました。今回の旅で多くのことを言語だけではなく、様々な考え方や文化を知ることができました。

最後にこの企画に携わってくださった皆さん本当にありがとうございました。

Life of Canada

Aiko Koga

I applied for this project because I wanted to go abroad and convey my thoughts to foreign people. Also I had set a goal to do something big this year, something that would change me. I have visited abroad before but I have not communicated with native. Therefore deciding to go to North Vancouver, of course I felt happy but a little nervous.

The Canadian people were really kind and cheerful, and I had a lot of fun talking with them. When I did not understand how to explain or what did they say, they taught me very politely. I felt Canada is like a big family, so my anxiety about leaving Japan was disappeared soon.

By the way, I was worried about meal of Canada. However, all the food I ate there was really delicious. Canada has diversity about food too. I was surprised to see many Japanese and Chinese restaurants on the way from the airport to destination the first day. My host family moved there from Latin America so I sometimes had meals from their hometown. I really enjoyed a lot of variety of food.

I did so many things in Canada that I have never experienced before. Especially I can have experienced in a rich nature that we cannot do in Japan. While having fun, I can have learned a lot about the history of the exchange between Canada and Japan, wild animals in Canada, and any other things.

The time I spent in Canada was meaningful but it went by quickly for me. During this visit, I learned not only English but also about the culture and values.

Finally, I appreciate for everyone who support us.

カナダに行って

鈴木 耕

私は留学をしてみたいという夢がありました。いまは、その夢をかなえることができるととても嬉しいです。まず、このような素晴らしい留学の機会を用意してくださった千葉県国際交流協会、千葉中央ライオンズクラブをはじめとしたこの留学企画に携わってくださった皆様に感謝しています。個人でカナダへ行ったとしてもこのような人生の一部分を形作るような貴重な思い出をつくるような体験はできないと思います。また、一緒にカナダへ留学した留学生の3人、および引率してくださった志内先生に感謝しています。おかげでとても楽しい時間を過ごすことができました。

カナダの空港についたとき、とても涼しく、いたるところから英語が聞こえてきて、日本とは全く異なる環境を感じ、海外へ来たという実感が湧きました。わたしはテレビやインターネットで見る英会話はとても英語が速いことから、海外で英語を通して会話をすることに対して不安の気持ちを抱いていました。しかし、カナダの人はとてもやさしく、わたしが聞き取れるようにわかりやすい英語でゆっくり話してくれました。そのおかげで緊張がほぐれ、最終日には普通の会話も聞き取れる部分が増えていることに気付いて、少しうれしい気持ちになったのを今でも覚えています。

公園でグラウンダーをしたのが良い思い出です。カナダには多くの公園があり、設備もしっかりしていて驚きました。私自身、久しぶりに公園で遊ぶ機会がとても楽しかったです。この遊びを通して、仲を深められたと思えるほど楽しかったです。

この留学を通して、多くの交友関係を築くことができ、貴重な経験をすることができました。いつかもっと英会話の能力、そして人として成長してまた、カナダに行きたいと思います。英語の勉強が苦手でしたが、これからは英語を通して英語を通していろいろな人と話すことの楽しさを学んだことで、英語の勉強が楽しくなると思います。これからがんばります。

本当にありがとうございました。

Go to Canada

Koh Suzuki

I had a dream to study abroad so I am very happy because I have achieved my dream. First, I would like to thank the Chiba City International Association, the Chiba Chuo Lions Club, and those who are involved in this project for providing such a wonderful opportunity to study abroad. I think that I cannot experience such a great memory which is a part of my life if I go to Canada alone. Second, I would also like to thank three exchange students and Ms. Shiuchi. Thanks to them, I could have a good time.

When I arrived at Vancouver airport, it was very cold and I heard English everywhere. I felt its atmosphere was different from Japan and I realized that I came overseas. I was anxious about talking in English overseas because the conversations in English are fast on TV and the internet, but Canadian people were very kind to us and they talked slowly for me to understand easily. Because of these kindnesses, I could relax, and I still remember feeling happy on the last day because I noticed that I could understand more of English conversations.

Playing grounder is a good memory. I was surprised because there are many parks and well equipped. I got the opportunity that I enjoyed at a park, so I enjoyed playing it for the first time in a long time. I had so much fun that I think we got to know each other better through this play.

Through studying abroad, I have built many friendships and gained precious experience. I want to go to Canada again when I improve my English skills and grow as a person. I was not good at studying English but now I have learned the joy of talking with many people in English, so I think I enjoy studying English. I will do my best.

I appreciate everyone.

カナダで見つけた新しい視点と心がほどけた夜

千葉市立誉田小学校 養護教諭 志内 幸子（引率者）

カナダの教育について話した際、不登校問題に対するカナダ人の柔軟な考え方に驚かされました。そもそも、英語には日本でいう「不登校」の微妙なニュアンスを正確に表す適切な単語がありません。彼らはおおむね、「学校教育だけが全てではない。各児童や保護者には選択する権利があり、その選択を尊重するべきだ」と考えているようでした。また、「どのような教育手段を選んだとしても、学びを保障するのは国の責任であり、カナダではオンライン学習も保障されている」「できないことを矯正するよりも、その子どもの良い部分を伸ばすことが大切だ」とも言われ、カナダの多様性や個人の権利を重視する考え方に衝撃を受けました。不登校対策を尋ねようとした私でしたが、カナダでは不登校があまり問題視されていないように感じました。むしろ、登校できないことを問題視する私の感覚に彼らはピンと来ない様子でした。国が違えば理想とする教育のあり方も変わってくるのだと改めて感じました。

一方で、カナダと日本の両国において、困難な背景を持つ児童に関してはいくつか共通点があることもわかりました。カナダ政府も貧困家庭に対して経済的支援を行っていますが、十分ではないとのこと。そのため、「子育てには十分な時間が必要だが、それを優先すると満足いく賃金の仕事に就けない」というジレンマが生じ、物価高が進むカナダでは多くのシングルペアレント家庭が貧困に直面しているといえます。そこにはカナダでは安全面からほとんどの小学生が保護者の車で登下校していることや、車社会であるため習い事への送迎にも車が必須であるという特殊な事情もあるそうです。

ある晩、ホストファミリーであるアレブ夫妻が「ミュージックナイト」というストリートライブに連れて行ってくれました。ライブが盛り上がるにつれ、子どもたちがまず前に出て踊り始め、それに続いてシニアのカップルが加わりました。車いすのグループもリズムに合わせて揺れ、ゲイカップルも見つめ合って微笑んでいました。会場全体がとても自由で温かい雰囲気に包まれていました。最初はダンスの輪に加わることに躊躇しましたが、「ここで参加しなければ一生後悔する」と思い切って飛び込みました。リズムに合わせて体を動かすことの心地よさは格別でした。他の参加者と言葉を交わす必要はありません、どうせ大音量で聞こえないのだから。相手のステップに合わせて踊り、「あなたのダンス、素敵ね。大好きだわ」と思う気持ちで、ただ目を合わせて笑顔を交わすだけ。そうしているうちに心が解放され、ふと周りの音がスーッと消えていくのを感じました。そして頭の中で「感情の蓋」がポンと外れる音が聞こえたような気がしました。その瞬間、「これがカナダだ！私は今まさにここにいるんだ」と感動のあまり涙が溢れました。これほど強く心が揺さぶられる経験をしたのは、いつ以来だったのでしょうか。年を重ねても、感動できることの素晴らしさを改めて実感したひとときでした。

A Journey through Education and Emotion

Chaperone: Sachiko Shiuchi

I have always been interested in Canadian education. So, when I heard the Canadians' opinions on the issue of “Japanese *Futoukou*”, I was surprised at their flexible way of thinking. To begin with, there is no appropriate word in English to accurately express the subtle nuance of “*futoukou*”. In their opinion, “School education is not everything. Both children and their parents have the right to choose, and that those choices should be respected. They said that “It is important to develop the strengths of the children than correct what he/she cannot do.” I was shocked at the Canadians’ emphasis on diversity and individual rights. I was planning to ask about measures against “*futoukou*”, but I felt that it is not seen as much of a problem in Canada. Rather, they did not seem to share my view that children should attend school. I feel that learning about the Canadian way of thinking has shaken my stereotypes and broadened my perspective.

On the other hand, I also learned that there are some similarities between Canada and Japan regarding children facing difficult circumstances. The Canadian government also provides financial support to poor families, but it is not enough. As a result, many single-parent families face poverty in Canada, where the cost of living is rising, due to the dilemma of “needing enough time to raise children, but not being able to find a well-paying job” if that is the priority. In Canada, many elementary school students are driven to and from school by their parents for safety reasons, and since the country is a car society, they also need to be driven to and from their private after-school lessons.

One evening, my host family, Mr. and Mrs. Arev, took me to a street live concert called “Music Night.” As the live music got more and more lively, the children first started dancing in front, and then followed by a couple of seniors. A group of people in wheelchairs also swung to the rhythm, and I also saw a gay couple smiling at each other. The whole venue was filled with a warm and free atmosphere. At first, I was hesitant to join the dance circle, but then I gathered up my courage and joined in, thinking that “If I don't join now, I will regret it for the rest of my life.” It was wonderful to move my body to the rhythm. There was no need for every one of us to talk because we would not hear each other over the music anyway. I danced to their steps, and internally, I was said saying, “Your dance is wonderful. I love it.” We simply made eye contact and exchanged smiles. As I did this, I felt my mind relax and the sounds around me suddenly became quiet. At that moment, I thought, “This is Canada! I am here right now!” I was so moved that tears welled up in my eyes. I cannot remember the last time that I had such a strong emotional experience. It was a moment that reminded me how wonderful it is to be moved and experience such deep emotions, even as I get older.

5. 記録写真（思い出の写真）

(1) 内山 朝和子



Free day に訪れた UBC。どの建物に入って良いのか誰も分からず、侵入者のようになってしまいました。



NV で初めての朝にホストシスターと飲んだスタバ。どの国の jk もスタバは好きみたいで嬉しかったです。



ホストシスターと協力していたずら。耕、ごめん（笑）



Nennie と Laguna と遊ぶ私。
二人ともすぐ懐いてくれて、毎日本当に癒されました。



街で立ち寄ったお店。物価高&円安で何も買えず、諦めて座り込んだ私たち。高校生が金欠なのも万国共通のようです。



礼乃が撮ってくれた高校生全員集合自撮り。この後のレーザータグは最高に楽しかったです。

(2) 小川 礼乃



ウェルカムパーティのあとに、海に行って家を作りました。その場にあるもので作りました。



ホームステイ先のわんちゃんです。私の家には犬や猫がないので新鮮でした。



ホストファミリーと School of Rock の舞台を見に行きました。初めてお会いしましたがとてもフレンドリーでした。面白かったです！！



サケの缶詰工場で見つめた、歴代の缶詰のパッケージです。どのデザインもカラフルでとっても可愛かったです。



キャピラノ吊り橋です。とても高くて少し怖かったですが、周りを木に囲まれていて、気持ち良かったです



Farewell party がありました。踊りやスピーチをよろこんでもらえて嬉しかったです。

(3) 古賀 愛子



バーベキューの準備が整うまで話していた時の様子です。この後にはたくさんスピード(トランプゲーム)をして遊びました。



みんなでグランダーという遊びをしている様子です。初日の夜からフェアウェルパーティーの日まで公園があったらすぐに遊びました。



シーサファリに行った時の様子です。水上をボートでかけまわり、たくさん濡れてたくさん笑いました。



フェアウェルパーティーでとったホストファミリーとの写真です。本当の家族のように接していました。



最終日の朝に完成したとても大きいパズルです。普段遅くに起きてくるホストブラザーたちもこの日だけは私のために早く起きて一緒に作ってくれました。



みんなで夜遅くに歩いた時の写真です。この後、チャーリーの家でディズニー映画のバイマックスを見ました。最高の夜でした。

(4) 鈴木 耕



初日の Welcome Party での初対面。暖かく
迎え入れてもらってとても嬉しかった。



初めての Free day にホストファミリーで行
ったキャピラノ吊り橋。
探検のような体験ができて楽しかった。



カナダの遊びについて教えてもらった。
日本と似ているようで似ていなかった。



ウィスラー1 日目の夜。初めて焼きマッシュマ
ロを食べた。おいしかった。



夕焼けを見ることになり、ぎりぎりで見ること
ができた。とてもきれいだった。



最後の Free day で連れてってもらったご飯
屋さん。量の多さに圧倒された。とても美味
しく、楽しかった。

(5) 引率者 志内 幸子



ホストマザー瑛子さんとジョージさんとグラウスマウンテンにて。鹿や熊を間近で見ることができて感激。



カナダの風景はどこもかしこも美しく、絵葉書の世界にいるようでした。個人の庭も野山もたくさんの花が咲いていて、いくら眺めても飽きません。



ミュージックナイトの様子。シニアカップルも車いすのグループもゲイカップルもダンスの輪に加わって。これぞカナダ！



ホストマザーのルシールと愛犬クオリーとともに。フェアウェルパーティへ向かう前一枚。



ホストファミリーアレブ夫妻宅にて。カナダの教育や社会問題についてたくさんの興味深い話を聞くことができました。



スカーミッシュへ向かうゴンドラにて。高校生のみなさんと過ごした素敵な2週間、毎日笑いが絶えませんでした。

令和6年度 青少年交流事業

カナダ・ノースバンクーバー市派遣 帰国報告書

発行 令和6年11月発行
編集・発行 公益財団法人千葉県国際交流協会
〒260-0013
千葉市中央区中央3-3-1
フジモト第一生命ビルディング2階
TEL : 043-306-1034
FAX : 043-306-1042
URL : www.ccia-chiba.or.jp/